

健康ネットワーク

補聴器について

加齢などが原因で聞こえが悪くなり、会話中に聞き返しが多く日常生活で本人やその周りの方が不自由を感じた場合に、補聴器が適応となります。補聴器は会話や周囲の生活音を大きくして、耳に入れる装置です。音は聞こえるが、会話が聞き取れず、「あ」を「か」と聞き間違えたりすることにより聞こえの不自由が生じます。大きくした音を耳に入れることにより、聞き取りを改善し、会話を楽しむことができます。

補聴器作成には、聴力を測定し難聴の程度や病気が無いかを確認する必要があります。さらに音だけではなく言葉も聞いてもらい、どの程度聞き取れるかを検査します。聞き取りは、ヘッドホンから流れる五十音を1個ずつ聞いて、何と聞こえたかを書いて、その正答率をみます。徐々に音を大きくし、その正答率が上がることが分かれば、実際に補聴器を付けたときの効果がどれくらいあるか、予想することが出来ます。しかし、残念ながら音をどんなに大きくしても聞き取りが十分に上がらない方がいらっしゃいます。そのような方は、補聴器を装着してもただうるさいだけということがあります。

補聴器は眼鏡と異なり、一度作れば終わりというものではありません。作成後に細かな設定を行い、装着する人がより快適に使えるように何回も調整を繰り返す必要があります。一度作った補聴器を使いにくいという理由で付けることを中断しないために、作成前の十分な検査と、使う人に合わせた補聴器の選択が重要です。

医師 渡辺 直人

羽生昔がたり

時代の流れと共に生活様式が大きく変わり、家庭の行事(晴れの日)も消えてなくなりつつあります。昔から伝えられてきた年中行事をお知らせしましょう。

家庭の年中行事

九月(長月)

- 1日 八朔の節句 生姜節句 二百十日
- 3日 毘沙門様(羽生)
- 11日 二百十日
- 15日 お日待ち(中岩瀬)
- 17日 秋葉様(本川俣)
- 20日 十五夜
- 20~26日 秋彼岸
- 24~25日 お日待ち(小須賀)
- 25日 天神様(東谷)

八朔の節句 生姜節句

五節句の最後なので、苦餅や新小麦で小麦まんじゅうをつくりまします。「ジャンカツカマまんじゅう」とはやしながら食べます。新しい嫁は実家へ苦餅や新小麦粉や新生姜を持たされて帰ります。このわけは「しよがけ(命がけ)です」とか「しんしよがけ(命がけ)です」の意味があり、嫁の実家からは農家には箕と一升マスなど、町の家の場合は飯台とおはちを土産物として持たせます。それには「何事にも行き届かない嫁ですが一升面倒をみてください」「見なおしてください」「舅 姑の面倒をみます」の意味があります。また近所にいがまんじゅう、ぼたもち、赤飯等が入っている「おけはく重箱」を配りました。

十五夜(芋名月)

団子五個、ススキ五本(ススキは稲科なので稲の穂にみたくて)、その年の初もので丸い物、芋、栗、柿、御神酒、さ



ひととひと 女と男

地域デビューの第一歩はボランティア活動から

7月6日(月)に、市教育委員会主催の第2回団塊世代支援講座「学校応援団で地域の子どもたちと楽しい交流をしよう」が川俣小学校を会場に実施され、その様子を取材しました。

「学校応援団」とは学校での教育活動を支援する保護者、地域の皆様によるボランティア活動の組織です。

学校応援団の活動体験発表

学校と学校応援団との調整役である学校応援団コーディネーターの方をはじめ、地域の安全を守るボランティアの方、学習面でサポートするボランティアの方の熱心な体験発表を伺いました。

児童の下校での付き添いボランティア活動

受講者全員で児童の一斉下校に付き添うボランティア活動を体験しました。

鳥風月

俳句

- 七変化昨日の白の今日青し 下手子林 関根 茂子
- ベイブリッジ仰ぎつ夜の舟遊び 下手子林 関根 照子
- 脚立たてかけて実梅の落つるまま 上新郷 関根 章子
- 島人のみやげに貰ふ桜貝 上新郷 関根 京子
- 青風去りて見廻る茄子畑 桑崎 関矢 秀子
- 窓際に姑の形見の濃紫陽花 中央四 瀬田 芳子
- 五月雨に満つる最上の舟下り 上村君 五月女文字
- 咲き乱れ夏野の雨はにほやかに 今 泉 高田 昭子
- 満目の青葉の風に観世音 中岩瀬 高橋 恭子
- 仏心を宿して蓮は花開く 中央二 田口 蒼雨

短歌 (羽生短歌会)

- ひとり居て臉の重し深き梅雨 上川俣 田口はつ江
- 夏霞む山へ弓なり昭和橋 稲子 田口三子
- 行きずりの茅の輪をくぐるぶらり旅 南 二田口 睦子
- 六地藏供花新たな梅雨晴間 上新郷 多田千代子
- うれしさの器いろいろさくらんぼ 南 三田辺つし
- 祝日にならず日の丸掲ぐ義兄は 祝日のこる足を曳きつつ 南 二岡村 新平
- ふるつかの池藻の花の水面には 背びれあらわに真鯉は跳ねる 本川俣 大久保久代
- 真つすぐに細く落ちくる雨の音 一人の午後は心に沁むる 東 七 富永 澄江

